

かみなりまつ
神成松遺跡第8地点

伊勢原市No.74・156

調査期間 2018年8月1日～調査中
所在地 伊勢原市上粕屋
時代 近世、中世、奈良・平安、古墳、
弥生、縄文、旧石器
調査原因 一般国道246号(厚木秦野道路)
建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

遺跡位置 小田急小田原線伊勢原駅の北西約
3kmの上粕屋扇状地上



主な調査成果

縄文時代後期～中期の集落跡が見つかっています。縄文時代後期(約4,000年前)は、長軸約10mの大型の柄鏡形敷石住居や土坑、配石が見つかっています。また、黒曜石の原石43点が収められた土器が埋められていました。

縄文時代中期(約5,000年前)は、調査区の東側から竪穴住居が複数検出されています。住居の配置から環状集落の一部であると考えられます。J7住居からは、曾利式土器の中で特に把手の部分が大きくデコレイトされた、いわゆる「水煙土器」が出土しています。J13住居では床面に掘られた穴に、底部に穴がつけられたほぼ完形の深鉢が、伏せた状態で埋設されていました。



縄文時代 全景



縄文時代後期の柄鏡形敷石住居



J7住居 水煙土器(縄文時代中期)



J13住居 伏甕(縄文時代中期)